

YouTube 配信

参加料無料・申込不要

東京都歯科医師会

YouTubeチャンネルから視聴できます！

配信期間

令和6年3月1日(金)～31日(日)  
(2024年)

講演時間

各講演 約30分



東京都歯科医師会  
YouTubeチャンネル

都民向けフォーラム

糖尿病・禁煙・口腔がん

講演

## 禁煙支援フォーラム

演題：新型タバコも危ない？  
喫煙とお口の健康や口臭について

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科  
健康推進歯学分野 教授 相田 潤 先生



## 糖尿病予防フォーラム

演題：生涯にわたる歯周病と  
全身の関係

日本大学松戸歯学部 歯周治療学講座 教授 小方 頼昌 先生



## 口腔がんフォーラム

演題：口腔がん：  
早期発見・治療はお金など  
全ての負担を軽減します  
ー早期発見のためのテクニックー

東京医科歯科大学 名誉教授 天笠 光雄 先生



東京都歯科医師会



主催／公益社団法人 東京都歯科医師会  
<https://www.tokyo-da.org/>

# 新型タバコも危ない？ 喫煙とお口の健康や口臭について

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
健康推進歯学分野 教授

相田 潤

## 講演要旨

タバコは健康に悪い、というのは誰でもご存じかと思います。最近、新型タバコ(加熱式タバコや電子タバコ)が登場し、健康に良いようなイメージもあるのではと思います。まだ研究は少ない新型タバコと健康の研究ですが、やはり新型タバコも健康に悪いのでは、という報告が出てきています。新型タバコがお口の健康に重要な歯周病を増やす可能性を示唆する研究も出てきています。

タバコといえば、健康のことだけでなく、においが気になることもあるかと思います。タバコを吸うことは口臭を増やすことも知られています。喫煙の後、一時的に口臭がすることに加えて、喫煙が歯周病の原因となり、歯周病が口臭の原因になることも分かっています。

また、歯周病は歯が抜ける大きな原因ですから、タバコを吸うことで歯周病になり、将来歯を失う可能性が高まります。受動喫煙ですら、歯が抜ける可能性を高めることが示唆されています。

口臭や歯が抜けることは、人と会うことに恥ずかしさやためらいを覚えさせる原因になる場合があります。歯が少なくなった人で、人との交流が減り、それが健康にマイナスの影響を及ぼすことも報告されています。

このように口の健康を通すだけでも、タバコは様々な影響を私たちに与えています。最新の研究データも交えながら、この実態を解説したいと思います。

## 略歴

2003年3月 北海道大学歯学部 卒業	2020年8月～2021年5月	東北大学大学院歯学研究科歯学 イノベーションリエゾンセンター 地域展開部門 教授 (クロスアポイントメント)
2004年3月 国立保健医療科学院専門課程 修了		
2007年3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程 修了		
2007年4月～2011年3月 東北大学大学院歯学研究科 助教	2020年8月～現在	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野 教授
2010年4月～2011年3月 University College London 客員研究員		
2011年11月～2020年7月 東北大学大学院歯学研究科 准教授		

## 専門医・指導医・学会活動

- 日本口腔衛生学会 認定医・指導医
- 日本疫学会 上級疫学専門家

# 生涯にわたる歯周病と全身の関係

日本大学松戸歯学部 歯周治療学講座 教授

小方 頼昌

## 講演要旨

歯周病は、歯と歯肉の間の歯周ポケットに沈着するプラーク細菌による炎症性疾患です。サイレントディジーズと呼ばれ、重症化するまで自覚症状が少なく、抜歯の主要原因が歯周病です。細菌、環境および患者さん自身の体質を含めた宿主因子の影響で歯周病が発症・進行することから、それぞれの因子を減少させることが治療につながります。全身疾患と歯周病の関係が数多く報告されていますが、その中で最も研究がすすんでいるのが糖尿病で、その他、脳および心血管疾患、慢性腎臓病、低体重児出産、早産、骨粗鬆症、呼吸器疾患などが報告されています。糖尿病と歯周病は生活習慣病として知られていますが、糖尿病の患者さんでは歯周病を高頻度で発症するため、歯周病は糖尿病の第6番目の合併

症とされ、炎症性疾患である歯周病の治療によって糖尿病の患者さんの血糖値の改善が認められることから、糖尿病と歯周病は双方向に関係することが示されています。

今回、歯周病はどのような病気であるか、病因および歯周病検査について解説し、歯周病の全身の健康への影響と糖尿病と歯周病の関係を、症例をまじえて解説したいと思います。おいしい食事をすることは人生の楽しみですが、歯周病が進むと満足な食事ができません。生涯にわたり健康な生活を送れるように、本講演が歯周病の予防も含めて皆様のお役に立てれば幸いです。

## 略歴

1984年 日本大学松戸歯学部卒業	2001年 日本大学松戸歯学部 歯周病学講座教授
1988年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)	2005年 日本大学松戸歯学部 歯周治療学講座教授(現在に至る)
1988年 日本大学松戸歯学部 歯周病学講座助手	2020年～2023年 日本大学松戸歯学部長
1991年 日本大学松戸歯学部 歯周病学講座講師	2021年～2023年 日本歯周病学会理事長
1992～1993年 カナダトロント大学歯学部 歯周生理学部門研究員	

## 専門医・指導医・学会活動

- 日本歯周病学会 歯周病専門医(指導医)
- 日本歯科保存学会 歯科保存治療専門医(指導医)
- 日本臨床歯周病学会 歯周インプラント指導医

# 口腔がん： 早期発見・治療はお金など全ての負担を軽減します —早期発見のためのテクニック—

東京医科歯科大学 名誉教授

天笠 光雄

## 講演要旨

口腔がんは、からだ全体のがんに占める割合は多くはありませんが、進行すると様々な障害に悩まされることがあります。

近年、拡大手術・即時再建手術などにより成績も向上していますが、手術後に後遺症が残ることもあります。早期発見治療は進行がん治療に比べてどれ程メリットがあるか、本講演ではその実態をお示し致します。なお、本講演で述べる口腔がんは、主に粘膜にできる扁平上皮癌とします。口腔がん全体の治療成績についてはおよそ55%～65%(5年累積生存率)であり、再建手術により術後の形態・機能はかなり温存されるようになりました。しかし、発音・嚥下等に少なからず問題もあります。

一方、早期口腔がんの治療成績は極めて良好で(90%以上)、早期治療により術後の形態(見た目の形の)異常も、発音・嚥下などの機能障害も極めて少なく、術後には全く手術を行ったか分からない程に治癒いたします。また、早期発見・治療では手術侵襲(身体的負担)は進行がんに比べれば極めて少なく、また治療する可能性が極めて高いことから精神的負担も少なく済みます。さらに手術治療に要する経済的負担(お金)はわずかです。以上のことから早期がん治療が進行がん治療に比べ多くのメリットがあります。これら早期口腔がんの症状や、早期発見のための方法についてもお示しします。最後に口腔がんの原因、予防方法についてもお話ししたいと思います。

## 略歴

1970年 東京医科歯科大学歯学部 卒業	2001年 東京医科歯科大学大学院 教授(顎顔面外科学分野)
1974年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了	2011年 同上 定年退職
東京医科歯科大学 助手(口腔外科学第一講座)	東京医科歯科大学 名誉教授
1991年 東京医科歯科大学 教授(口腔外科学第一講座)	日高病院 歯科口腔外科・東京新宿メディカルセンター 歯科 顧問
	1998年～2013年 NHKラジオ第1放送 健康相談員

## 専門医・指導医・学会活動

- 日本口腔外科学会 専門医・指導医
- 日本禁煙科学会 中級禁煙支援士

【会 員】日本口腔衛生学会、日本渡航医学会  
【功労会員】日本癌治療学会  
【名誉会員】日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、日本歯科薬物療法学会、日本顎関節学会、日本口蓋裂学会、日本顎変形症学会、日本口腔内科学会、日本唾液腺学会、日本顔面神経機能学会、日本歯科色彩学会 ほか